

きたもの

創業希望者にとって支援機関は敷居が高く感じられがちであることを認識した上で、創業に向けた一歩を少しでも踏み出しやすくするための工夫として、創業希望者にとって柔らかな印象を受けるような名称や親しみやすいロゴを活用するなどといった、聴覚や視覚効果を意識した工夫が見られます。

創業後の継続支援を重視

創業した時点で支援を終了せず、創業者と接触する機会を設けたり、定期的な連絡を欠かさないなど、創業者が創業後、事業を軌道にのせる前に挫折しないよう、創業後の支援に取り組んでいます。

創業者が評価していたことについて

越境に抵抗感が少ない創業者の存在

創業のために住所地を変更したり、住所地と異なる地域で創業している例が少なくありません。

彼・彼女らが重視するのは、情報の入手や人脈の構築といった事業に有利な条件が揃っていたり、地元住民や組織、文化など町に魅力を感じたりすることにあります。

幅広い施策情報が入手できたことを評価

市・町だけでなく県や国などが行っている制度など、幅広い施策情報が提供されたことを評価しています。

各種申請手続きにかかわる支援の評価

許認可の申請や助成制度の申請など、創業者にとっては不慣れな手続きに関して、申請書類の書き方や申請の方法など丁寧な助言や情報が提供されたことを評価しています。

伴走支援の評価

直面した問題に対し自分で解決する力を養えるよう、共に事業の現場で理解できるように助言してくれる、伴走型の支援を評価して

います。

創業後の継続支援を評価

創業した後も、支援を受けた担当者から継続して情報や助言を受けたり、施設を利用したりするなど、創業後も継続した支援が受けられることを評価しています。

創業者コミュニティに対する評価

先輩経営者から助言を受けたり、創業者同士で情報を交換したり、メンター機能や人的交流、人脈構築の機能を持つ「創業者のコミュニティ」の存在を評価しています。